

# 福岡県西方沖地震

災害発生日 平成17年3月20日

主な被災地 九州地方

## 地震空白地帯を襲った大地震 震度6弱は観測史上初

安全地域と思われていた地震空白地帯である九州北部をマグニチュード7.0の大地震が襲った。九州北部では観測史上初の震度6弱という記録的大地震は、玄界島を中心に大きなツメ跡を残した。

人的被害は死者1人、負傷者1087人。

住家被害は全壊133棟、半壊244棟、一部破損8620棟。



一方、九州最大の繁華街である福岡市中央区の天神では、地震発生と同時にビルのガラスが割れて歩道に落下。ビルによっては外壁もはがれ落ち、歩行者らがけがをした。

また、強い揺れの影響で九州北部を中心に交通網がマヒ。新幹線や在来線が半日近く運休となったほか、高速道路も一時不通となるなど、市民の足に大きな影響が出た。

### 玄界島で家屋倒壊が多発 九州北部で大きな被害

3月20日10時53分頃、福岡市中心部から北西約40kmの玄界灘の海底約9kmの地点を震源とする地震が発生。震源地はごく浅くマグニチュード(M)7.0、福岡市や佐賀県南部では震度6弱を記録した。九州北部は大地震の空白地帯とされてきた。今回のM7.0クラスの大地震は、

1884年に観測を開始して以来、初めてである。

震源地に近い周囲4kmの小さな島である玄界島では、島内のあちこちにひび割れができ、島のほとんどの民家が何らかの被害を受け、倒壊する家屋も目立った。地震発生前後から有感地震で130回の余震が起きる中、漁協役員など10人を残し、全島民約500人が避難。事実上の「全島避難」となった。

## インタビュー Interview

### 住民一丸となった避難と復興

防災意識の向上と復興への合意形成の鍵は地域コミュニケーション

伊藤 和義氏 玄界島復興対策検討委員会 委員長

被災当日に全島避難、そして復興。地域住民のコミュニケーションがあればこそ迅速な対応ができた玄界島。避難が成功した要因などについて、陣頭指揮をとった玄界島復興対策検討委員会の委員長である伊藤和義氏に伺った。



地震に遭った時、どこで何をされていましたが。

所用がありまして、福岡市営渡船に乗船して博多に向かっていました。突然、大きな衝撃音が船内に響き渡り停船。大きな漂流物と衝突でもしたのかと思いました。ほどなく船も動き出したので、大地震が発生したとは気付きませんでした。

地震だとわかったのは、博多に到着してからです。発生から7分後に地震と知ったのです。

地震が収まった後、周囲の状況と対応策はどのように講じられましたか。

博多埠頭も被災しており、心配になって島へ携帯電話で連絡をとってみたのですが、つながりません。そこで、客船事務所に行

って何とか許可を得て、臨時便で帰島しました。

帰島すると埠頭の亀裂、住居倒壊の惨状が目に入りましたが、住民は津波を警戒して、山腹に避難して無事でした。しかし、余震が多発し、家屋の被害が大きいので、仮の対策本部を立ち上げ、10人だけを残して全島避難となったのです。

人的被害を最小限にとどめた秘訣は何ですか。

命を落とした住民がいなかったのは、日頃の火災訓練の賜物です。玄界島の集落は傾斜地にあっても道も狭いため、消防関係の車両が進入できません。そこで、日頃から小中学校と連携した住民参加型の火災訓練を実施していました。火災訓練だけで地震

の訓練はしていませんが、住民の防災意識が高かったこと、そして訓練を通じて地域のコミュニケーションが良かった結果だと考えています。

1月28日、市が提案した復興計画の最終案が島民総会で了承されましたが、復興への思いをお聞かせください。

復興に関しては、座談会やワークショップを開催して意見を委員会でもまとめました。合意形成には、みんなでじっくり話し合うことが、一番大切なことと考えています。

復興計画がまとまったことから、ゴールが見えてきましたが、これからもみんなで力を合わせて、島の復興に取り組んでいきたいと考えています。